

上関 未来通信

豊かな町を原子力発電とともに

上関町まちづくり連絡協議会 ● 会報

No.26
正月号

通算340号

発行 平成30年1月15日

謹んで新春のお慶びを申し上げます



上関町まちづくり連絡協議会
代表幹事代行 藤井 快宏

平成30年の新春を迎え、謹んでお慶びを申し上げます。

また、平素より「上関町まちづくり連絡協議会」の活動にご支援、ご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

原子力発電において明るい兆しが見られました。さらに、現在、国においてエネルギー基本計画の見直し検討が進められていますが、地球温暖化への対応やエネルギー資源の安定確保の問題に加えて、原子力発電所の経年化問題等の現況を踏まえると、国内唯一の新規立地点である上関原子力発電所は、今後重要な役割を果たしていくものと期待しています。

日本経済は回復基調にあるとの報道があります。上関町においても一刻も早い景気回復の「春」の到来が待たれるところです。

町連協は、今年も講演会や勉強会等を通じて原子力発電の理解活動を行うとともに、「上関原子力発電所の建設・運転を契機とした活力あるゆたかな町づくり」に向けた活動を続けてまいります。引き続き変わらぬご支援をお願いいたします。

最後に、本年が皆様におきまして幸多き一年となりますよう、心よりお祈り申し上げます。

平成三十年一月吉日

2017年の出来事

- 1/20 上関未来通信23号(正月号)発行
- 4/4 町連協幹事会
- 4/11 青壮協が原子力産業協会年次大会・JAIF地域ネットワーク意見交換会に参加
- 7/2 青壮協が中の浦清掃活動を実施
- 9/10 エネルギー勉強会を開催(講師:秋津裕氏)
- 9/28 町連協幹事会
- 10/10 上関未来通信24号発行
- 10/24 「朝鮮通信使に関する記録」がユネスコ世界記憶遺産に登録決定(『朝鮮通信使船上関来航図』が登録される)
- 10/26 原子力の日ののぼり設置・街宣活動
- 10/28 エネルギー講演会を開催(講師:鈴木國弘氏)
- 11/6 青壮協がJAIF地域ネットワーク見学会に参加
- 12/7 町連協幹事会
- 12/10 上関未来通信25号発行

2018年(平成30年)は
上関大橋竣工50周年です。
約9千人の町民が開通を祝いました。



開通式(1969年6月21日)



新春スペシャルインタビュー 2018年を迎えて

ユネスコ世界記憶遺産に登録された「朝鮮通信使船上関来航図」

毎年恒例の一大イベント「水軍まつり」



上関町の名を全国区に

古泉●昨年10月、『朝鮮通信使船上関来航図』を含む「朝鮮通信使に関する記録」がユネスコ世界記憶遺産に登録されました。上関町の観光振興にとって、どのような効果が期待できるでしょうか。また、それに関連して、どのような催しを行う予定でしょうか。

嶋尾●近年、上関町への観光客は着実に増加傾向にあります。さらに、朝鮮通信使をはじめとする町内の史跡は観光資源の一つでもあるので、この度の世界記憶遺産登録は、より広く上関町をアピールするよい機会だと捉えています。ただ、世界記憶遺産に登録されたからといって、何もしないで観光客が増えるわけではありません。全国に向けた情報発信やイベントの開催など、観光客誘致の取り組みを積極的に行っていきたいと思っています。

今年の最も大きな催事は「**朝鮮通信使ゆかりのまち全国交流大会**」の開催です。これは毎年各地の朝鮮通信使ゆかりの町で開催されている大きなイベントで、25回目となる今年は上関町で開催されることになりました。この大会の開催地では毎年独自のイベントを実施しており、上関町では通信使行列や来航図に描かれた船団の再現ができればと思っています。これは地元の方々の協力がなければ実現しないので、各方面と協議しながら進めていけたらと考えています。

古泉●春には恒例となった城山歴史公園の「桜まつり」が控えていますが、そのほかにもどのようなイベントを企画していますか。

嶋尾●「桜まつり」は毎年来場者が増えてきて「花咲く海の町 上関」が浸透しつつあります。近年では地元グループや道の駅と共同で企画したイベントも同時開催しており、来町者の増加に結びついていると思います。

新しい取り組みとしては、町内の史跡や遺構を巡る「**古地図を片手にまちを歩こう**」という企画があります。山口県内を中心に28ヶ所で行われており、上関町観光協会でも、5名からのグループで案内しています。

古泉●朝鮮通信使関連のイベントが開催されることもあり、今年は大勢の観光客が来町すると思います。また、室津埋立地の公園化計画や風力発電事業に伴う上盛山の整備計画などもあります。これらを契機として、上関町の観光振興が行われることを期待しています。



経済活性化をバックアップ

古泉●上関町商工会では会員企業および町の活性化に向けて、本年度から「経営発達支援計画」の策定に向けて取り組んできたとのことですが、これはどのような内容でしょうか。

濱田●町内の商工事業者の減少に歯止めをかけることを目的とした計画です。後継者の育成などを柱にしています。経済産業省から「小規模事業経営支援事業費補助金」を受け取りました。この審査は非常に厳しく、計画が認定されて補助金が交付されたのは熊毛郡内では上関町商工会だけです。ただ、この補助金の認知度が低いことからまだまだ利用希望者が少なく、会員へ活用を呼びかけているところです。

古泉●そのほか町内の商工業振興に向けて、どのような取り組みをされていますか。

濱田●事業承継のための説明会を開いたり、利益体質確保のため、域外進出に向けての展示会や販売会、ホームページの作成支援などを行っています。

また、本年度から職業紹介事業も行っています。これは求人と求職のマッチングを行うもので、このような事業を通じて町内業者の育成を図っていきたいと考えています。

古泉●若いお母さん方も、時間が空けば働ける環境ができればいいですね。商工会ではフォトコンテストなども開催されていますが、どのような狙いがあるのでしょうか。

濱田●自分が住んでいる町の良さに気付いていない人もいると思うので、町の魅力を再発見してもらおうとともに、町外に向けた情報発信にもなればと考えています。

古泉●商工会青年部が水軍祭りの実行委員を務めるなど、イベントへも積極的に参加しておられますね。

濱田●若い人に頑張ってもらうなければ、町の経済は成り立ちません。若者がやる気を出せるような各種イベントを、商工会としても積極的にバックアップしていきたいと思っています。

古泉●まだまだ町の経済にとって厳しい状況が続くと思いますが、商工会がリーダーシップをとって、上関町の経済を盛り上げて欲しいと思います。

